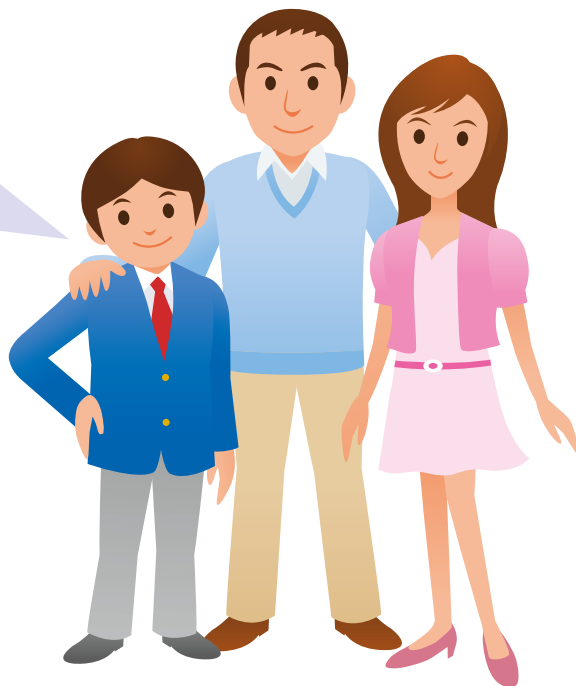


教えて！ にちぎん

日銀の「支店」

日本銀行で広報を担当する父を持つ大学生の知子さんと中学生の^{まなぶ}学くん。今回は日銀の「支店」について勉強します。日銀をよくご存じない方も、気軽にお読みいただければ幸いです。より詳しい内容は、HPの「教えて！ にちぎん」や各支店のHPをぜひご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/oshiete/index.htm>



小樽の金融資料館

お父さん、今度中学の修学旅行で北海道に行くとき、小樽では「金融資料館」という所を見学するんだけど、案内には「日本銀行旧小樽支店」と書いてあるよ。

そう、元は日銀の小樽支店だったのだけれど、平成十五年五月から現在の金融資料館になったんだ。かつて「北のウオール街（金融街）」と呼ばれた当時の小樽の面影を残した歴史的な建物で、小樽支店の歴史や日銀の仕事についても分かる展示を行っている。今では小樽の観光名所になっていて、見学者数は年間一〇万人を超え、累計でも七〇万人を超えたんだ。

日銀の「支店」

日銀の支店だったんだ。確かお父さんも若いころ支店で働いていたと言ってたね。日銀の支店って、いくつあるの？

全国で三だよ。日銀の支店って、どんな役割があるの？

二人ともこれまで本店で行われている仕事を勉強してきたよ

ね。支店はいわば本店のミニチュア版ってところかな。本店と同じ仕事をしている部分が多いんだ。地方の第一線で業務を行い、地域経済に貢献する。それが支店の特色だよ。

具体的にはどんな仕事？

地域経済にお札や硬貨を供給する、地域の金融機関との間で預金の受払や貸出を行う、国の税金や社会保険料の受入など国庫金を取り扱う。一言で言えば、地域のお金の動きの中心となっているんだ。お金の流れを経済の血液に例えれば、地域経済の中で「心臓」の役割を担っているのが、日銀の支店なんだ。

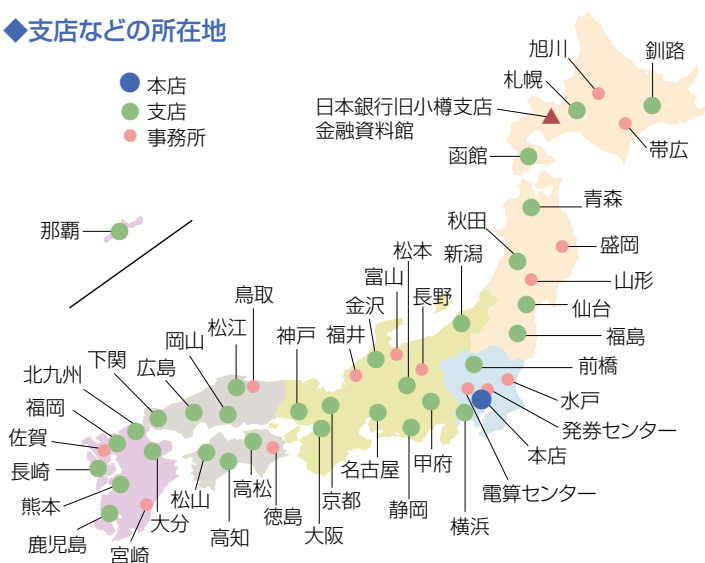
日銀自体、日本経済の「心臓」の役割を担っているんですよ。本店がある東京だけでなく、各地に「心臓」があるわけね。

そのとおり。また、支店は、



日本銀行旧小樽支店金融資料館

◆支店などの所在地



地元の企業の方にお話を伺ったりしながら、地域の金融経済の状況を調査している。その調査結果は三カ月一度開催される支店長会議で本店に報告され、政策運営の材料として使われている。同時に、これらの情報は支店長による記者会見や講演、ホームページなどを通じて、地域の方々にも還元されているよ。

さらに、支店は、金融システムの安定性を確保するために、地域にある金融機関の経営状況等の把握にもつとめているんだ。

支店の所在地など

日銀の支店ではどのくらいの人が働いているの？

日銀の職員五千人数のうち、約三千人が支店で働いている。

全国で三二支店というのは、どんなところにあるの？

これが配置図だよ。

ね。日本全国をカバーしているんだ。支店って、いづところからあるの？

日銀が開業したのは明治十五年の十月。その年の十二月には大阪支店を設置しているよ。

二番目は？

明治二十六年の西部支店。現在の北九州支店の前身だよ。

日銀の支店って、何のために設けたの？

一つのは地方の金融を円滑にするためだったんだ。例えば西部支店は、大阪以西の金融の便を図るために設けられた。当時、中央と地方のお金の流れは円滑ではなく、金融市場は

全国的に統一されていなかった。そのため、金利は地方の方が高いことが多かったんだ。

新しい支店はどこなの？

那覇支店は昭和四十七年の沖縄の本土復帰日に開設されたし、横浜支店は昭和四十九年にそれまでの事務所から支店になったんだ。

じゃあ、古い支店では一〇〇年以上、新しい支店でも四〇年近い歴史があるわけね。

非常時の支店

支店の歴史をみると、通常時はもちろん、非常時においても支店職員が強い使命感を持って業務を遂行してきたことがわかるよ。

非常時というとき、関東大震災のとき、本店が一日も業務を休まなかったのは有名な話ね。

日銀の支店も、地震、火災、台風、集中豪雨、停電などの際に、奮闘した事例がたくさんあるんだ。戦時中の空襲時もそうだよ。

究極の例だけど、広島支店は原爆投下で勤務していた職員の半数近い三七名もの人が亡くなった。それでも爆心直下で焼け残った支店の建物で、翌々日から営業を再開

したんだ。近隣支店などからも応援に駆け付けている。

信じられない。

近年では阪神・淡路大震災のときも、早朝の大地震の後、神戸支店は通常通り朝九時から営業を開始し、震災の極限状態の中で被災地にお金を供給し続けたよ。

平成七年のことね。テレビで見たのを覚えているわ。

日銀の支店の仕事について、支店の人から話を聞くことができないかな。

じゃあ、今度の支店長会議のときに、上京した支店長から話を聞いてみるかい。

そんなことができるの？

広報の先輩にあたる支店長が二人いるので、お願いしてみるよ。



原爆投下後の日銀広島支店
(写真提供：広島平和記念資料館、撮影：川本俊雄氏)

知子さんと学くんの 日銀訪問

【日銀の「支店」】

先日、お父さんから日銀の支店の概要について教えてもらった知子さんと学くん。今回は、支店長会議のために上京した日銀の支店長から、支店の話を聞くことになりました。



支店長会議

神田知子と申します。こちらは弟の学です。本日はよろしくお願ひします。

京都支店長の渋谷です。こんにちは。どうぞよろしく。

高知支店長の野原です。よろしくお願ひします。

支店長会議

ときどき、新聞で「日銀支店長会議」の記事が出ているのを見ます。会議ではどんなことをしているのですか。

三カ月ごとに全国の支店長が本店に集まり、各地の金融経済の状況を報告しています。

この報告は、日銀が金融政策を運営する上での判断材料の一つとなっています。

支店長会議で報告した内容は、公表されているのですか？

各支店からの報告は、「さくらレポート」（地域経済報告）にまとめられ、公表されています。

報告のまととなる情報は、どうやって集めるのですか？

支店には、産業調査や、金融機関の経営状況の把握を担当している職員がいます。産業調査の担当は、地域の経済統計を作成・分析し、企業の方にヒアリングを行いながら、地域の経済動向を把握します。金融機関の担当は、地元金融機関の経営状況の把握などを通じて金融システムの安定性確保につとめるとともに、金融機関から地域の金融経済の情報を得ています。

企業と金融機関からの情報を総合して分析し、的確な判断ができるようにしています。

こうして分析した結果は、それぞれの支店で「管内金融経済概況」などの形で公表されています。

支店長も調査をするのですか？


もちろんです。地元企業の経営者の方から直接お話を伺って、最近の景気や企業経営の動向を把握するようにしています。


日銀の支店長は、地元の企業経営者、金融機関経営者、官庁関係者ほか、多くの人と日ごろから交流しています。そうした中で、景気に関する生の声、日銀に対する率直な意見を聞くことができます。支店長からは、日銀の政策運営の考え方をなどを説明しています。





企業ヒアリング


支店の体制


 支店は、どのような体制で仕事をしているのですか？


 規模が比較的大きい支店は「営業課・発券課・業務課・文書課」の四つの課、その他の支店は「総務課・発券課・業務課」の三つの課に分かれています。京都支店は四課です。


 それぞれ、どのようなお仕事をされているのですか。

 「営業課」は、経済調査と金融機関の経営状況の把握を行っています。

 「発券課」は、金融機関との間でお札や硬貨の受払を行っています。


 「業務課」は、金融機関との間で日銀ネットを通じた預金の受払や貸出などを行っています。また、国庫金の受払、国債の発行、元金や利子の支払も行っています。


 「文書課」は、支店の内部管理の担当です。勤務や予算の管理、建物の管理・警備も行っています。


 高知支店は三課です。営業課と文書課の事務を、「総務課」


という一つの課で行っています。


「営業課」(「総務課」)の仕事


 先ほどの調査の仕事は、「営業課」や「総務課」の仕事なのですね。

 そうです。調査の際に使用する統計について補足しますと、地元の官庁等が作成している統計を利用するのはもちろんですが、「短観」ほか、日銀が独自に作成しているものもあります。

 「短観」は、本支店から企業にアンケート調査を行い、本店が全国ベースの調査結果を公表していますが、支店では地域ごとに集計したデータを公表しています。


 それをみれば地域経済の動きがよく分かるわけですね。

 また、広報にも力を入れています。各店がそれぞれ工夫してホームページで情報発信を行い、店内の見学案内も行っています。


 見学の際には、ビデオ上映、店内見学、偽札の見分け方


やお札の数え方の体験などを行っています。支店ごとに展示も工夫しています。


「発券課」の仕事

 「発券課」の仕事は、本店の発券局と基本的に同じです。いわゆる『発券銀行』の仕事です。お札の受払を金融機関との間で行うほか、日銀の支店に戻ってきたお札は、専用の機械(自動鑑査機)によって、偽札がないか、汚れ度合いなどからみて再び世の中に流通させてよいかどうかをチェックしています。また、窓口では、焼けたり、破れたり、汚れたりしたお札や、磨耗・変形した硬貨を、新しいお金と引き換えています。


「業務課」の仕事


 業務課の仕事のうち、金融機関との間の預金の受払、貸出などは、いわゆる『銀行の銀行』の仕事です。国庫金の受払、国債の発行、元金や利子の支払は、『政府の銀行』の仕事ですね。


 国庫金というのは、どん


なものを扱っているのですか？
 国税や社会保険料の受入が中心です。支店の窓口に通関反則金を払いに来る人もいますよ。


支店は本店の縮図

 支店も、『発券銀行・銀行の銀行・政府の銀行』の役割を担っているんですね。

 そう。日銀の支店は、本店と同じ基本的な機能を、地方の第一線で果たしています。

 支店の建物には、辰野金吾など、近代日本を代表する建築家が設計した有名なものも多くあります。京都支店の前店舗もそうで、本店本館と同じく国の重要文化財です。今も京都文化博物館の別館として残されています。地方に旅行したときなどに日銀の支店をぜひ訪ねてみてください。

 今度修学旅行で辰野金吾などが設計した旧小樽支店を見学してきます。機会があればほかにも行ってみたいです。

 本日はどうもありがとうございました。